

事業所名 グループホーム田園 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

(2階ユニット)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	掲げている理念に近づけるよう、日々全職員で努力している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム各所に掲示し、共有に努め実践に取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム各所に掲示し、理解していただけるよう取り組んでいる。	○ より一層、ご家族や地域の方々との連携を深めていけるよう努めていきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方々や、小学生、保育園の先生達とも気軽に挨拶するよう心がけ、積極的に実践している。	○ より交流が出来るよう、取り組んでいきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しているものの、地域行事への参加はできない状況にある。ただ、隣接の保育園や福祉センターの行事や、園の行事への招待など少しは交流できている。また、地域の中学生の学習の場として受け入れは行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	中学生のボランティア実習の受け入れを積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価後、改善に向けた取り組みを実践している。毎年、僅かずつではあるが、改善できていると思う。	○	評価の意義を理解し、評価後の改善に取り組みながら、ケアの質の向上につなげたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時、評価結果の報告を行い、率直な意見を述べて頂いている。また、利用者の状況についても報告したり、他の施設や地域の情報等も得ている。	○	多くの家族にも参加をしてもらい、会議を活かす取り組みをして行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	都度、情報提供や相談を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修や資格取得のため勉強している職員は学ぶ機会があるが、職員全員が十分に理解しているとは言えない。	○	ホーム内研修や外部研修で学ぶ機会を設けて行きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等で機会を持ち、日々防止に向け取り組んでいる。	○	虐待防止の勉強会を開催し、今後も取り組んで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には話を聞く機会を設け、契約時に十分な説明を行っており、理解や納得を得て頂けるよう取り組んでいる。	○	今後も継続して取り組んでいきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見や不満を直接聞き出すことが出来ない場合もあるが、表情やしぐさから推察し対応することが多い。また外食や外出の機会には表情が良くなることからそれらの機会を設けるよう努力している。	○	今後も継続して取り組んでいきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時には利用者本人の状態の報告を行っている。また、特変ある場合は、電話で報告や連絡を行っている。田園便りを定期的に発行し園内での様子などをお知らせしている。	○	今後も引き続き連絡・報告を密にしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート調査を実施したり、苦情等の相談窓口の案内や意見箱の設置も行なっている。また、公的窓口の紹介も行なっている。	○	ご家族からの率直な意見が聞けるよう、努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りやミーティングで相談や報告、意見交換や提案が聞ける機会がある。	○	引き続き取り組んでいきたい。業務に追われるだけでなく、話し合いの機会を増やしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	余裕をもった勤務体制を整えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化し、異動は最小限に抑えている。また、ユニット毎交流は頻繁で、常に利用者とは顔なじみの状態にある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための研修には、優先的に有給を使えるような配慮をしている。また、研修の案内は、館内に掲示し啓蒙を行なっている。	○ 研修会への参加の機会を増やして行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行なわれるな地域グループホーム協会の会議に参加し、意見交換等を行なっている。	○ 引き続き取り組んで行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	悩みや話を聞く機会を設けている。喫煙者は一服できる時間が有り、また時間をみつけ、御茶やコーヒーを飲める時間を設けるようにしている。また、月9回の休日を設けるなど職員の体調に配慮している。	○ 親睦会を開催したりし、ストレス発散の場を広げたり、話を聴く機会を多くして行きたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得の支援(職務手当での支給や昇給)を行なっている。	○ 職員が向上心を持って、また誇りをもって働けるよう、努力して行きたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時は中々本人の意向を聞きだすことはできないが、入居後生活の中で折に触れ聞き出すことができるよう努力している。	○ 今後も継続して取り組んで行きたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の面接等で希望や不安を可能な限り聞くように努めている。	○ 家族が安心して預けられるよう、努力して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や担当ケアマネージャー等と相談し、他のサービスの利用も含め、説明や情報を与えるよう対応している。(家族が中心となることが多い)	○	本人や家族が困ることのないような対応をしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただいたり、聞き取り調査等を念入りに行なってはいるが、いきなりサービスを開始することもあるため、本人も混乱したり、対応する職員も戸惑うことがあったりする。	○	本人にとってより良い方向性が出せるよう、家族と話し合いながら今後の対応をすすめていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意なもの(お茶やお花)や出来ることに着目し、軽作業等をお願いしたり、活躍できる場面作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いも受け止めながら、本人を支えるため面会や外出の機会を設けていただいている。	○	今後も家族に協力をお願いし、本人を支えていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している			
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の人や、親戚、友人の来訪や、一時帰宅などしている利用者もおり、継続して支援して行きたい。	○	地域の人たちとの交流を深めて行きたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係をスタッフが把握しており、トラブルが起きないように支援している。また、利用者同士もいたわり合ったり、慰めあったりしながら生活されていると思う。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した場合でも、家族の訪問があったり、近隣の施設に転居した場合には、時折面会に出かけているが、全ての利用者に対しては行なえていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の意向を尊重しようと態度や表情をみて出来るだけ意向に添えるよう努めている。個別援助計画も本人の意向や或いは本人にとって何が一番いいのかを考えて計画の立案を行なっている。	○	嗜好や意向について更に把握していきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りには限られたものや、ほとんど情報がないことが多いが、生活していくなかで、会話の中からや訪問されたご家族からの聞き取りを行い、少しずつ情報を得ている状況であり、そのことは生活日誌等に記録し、職員間の情報の共有をはかっている。	○	今後も引き続きご家族の協力を得て継続して行きたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの身体状況を把握し、排尿・排便サイクルや不穏時などの対応を職員間で情報を共有しながら統一した対応を行なっている。また、個々に対しできること出来ないことを見出し、本人の意思を尊重しながら軽作業等をお願いしている利用者も居る。	○	心身状態については、協力医等へ情報を提供しながら、より良い対応をして行きたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	できること出来ないことや本人の心身状態の把握をし、また刻々と変化する利用者の状況や情報を職員間や家族・協力医と情報共有しながら、本人にとって一番いい方法を職員間で話し合い、個別援助計画の作成を行なっている。	○	今後は利用者の参加も検討していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の変化に応じた援助計画の作成を行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子(食事量、排便の有無、入浴の有無、服薬状況、受診状況)等、生活日誌に記録し、変化については協力医や家族への相談・報告など行い、柔軟な対応をし援助計画に反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医の往診依頼や受診援助、歯科往診及び他医療機関への受診援助等行なっている。車椅子対応車も隣のデイサービスから借りることができる。また、通常の入浴が不可能な場合、デイサービスの特浴(機械浴)を利用している。	○	今後もある資源を有効に使って対応したい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員(二名)には、運営推進会議にも参加していただき、また第三者委員にもなって頂いており、ホームについて理解やご協力を頂いている。また、近隣の中学生の教育の一環であるボランティアの受け入れなど行なっている。	○	地域の人たちとの交流はまだまだ少ないので、深めて行きたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在他のサービスを利用している利用者は居ないが、隣のデイサービスのイベントなどがある日には、職員が付き添い出かける機会はある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には地域包括支援センターの方もメンバーに入っており、情報等を得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約時にかかりつけ医の継続が可能であることを説明し、本人や家族の意向を聞きながら援助しているが、時間の経過とともにほとんどの方が協力医に変更されており、情報交換等も含め良好な関係が築かれていると思う。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳やプライドを傷つけないよう配慮するよう、都度申し送り時や話し合いを行ない日々取り組んでいる。	○ 引き続き継続的に取り組んでいきたい
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に合った言葉かけや対応を行い、それぞれに対応している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々業務の改善や、変化する利用者の状態に対応できるよう心がけ、職員間で情報を共有しながら対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の希望を聞き、美容院や理髪店へ出かけたり、訪問理髪サービスを利用される方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を見極めながら、味見やゴマすり等・配膳・皿洗いなどを一緒に行なっている。また、体調や嚥下状態・歯の状態に応じ個別に応じた食事提供を心がけている。また季節や行事を感じてもらえるようなメニュー作りを心がけている。	○ メニューがマンネリ化しないような工夫をしていく
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	正月や行事には少量ではあるが、お酒や飲み物を楽しめるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、状況に応じてパットやリハビリパンツの使用をしたり、個別にトイレ誘導を行なっている。またプライドを傷つけないよう、毎日の入浴を促し清潔を保っている利用者も居る。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日や1日おきに声掛けし、体調や希望に添った入浴を心がけているが、時間帯は昼食後13:30頃～15:30頃の間が多い。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食堂でテレビを見たい人や、居室でテレビを見る人など、また多動となられた人とは、一緒に廊下清掃などをしながら、トラブルなく各々自由に過ごせたり休息できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力や希望に応じた対応をしている。近隣のスーパーへ買い物に出かけられたり、喫茶店にコーヒーを飲みに出かけられる人もおり、個別に対応支援している。散歩やドライブ、外食、行事など楽しんでいただいたり気晴らしをしてもらえるよう支援している。	○	職員の自己満足にならないよう配慮して行きたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を所持している利用者もおられる。所持金が少なくなると事務所で決まったお金を入れて差し上げている。毎日のように買い物に出かけたり、喫茶店で食事を楽しまれている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	どうしてもホームの中で過ごしがちなため、散歩や外食、ドライブの機会を設けて対応している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年より、外食の機会を増やしている。行事や祭事のため家族が付き添い一時帰宅(2～4泊)したり、日帰り帰宅をされる利用者もおられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいとの要望があれば手助けしたり、あるいは家族からの電話を繋いだりしている。葉書はお正月に家族に届くように名前を書いてもらうなど支援している。	○	手紙(葉書)の回数を増やして行きたい。家族との心の交流ができるようお手伝い出来るようになりたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の面会時間は自由であり、自室やホールでお話され過ごされている。その際職員からも、近況情報等の提供を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は禁止であることを職員は理解している。また、今後も身体拘束をしないケアに取り組んで生きたい。	○	身体拘束に関する勉強会を継続的にして行く。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵はかけないが、センサーは付けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は居場所の確認等、安全に配慮している。また、夜間は随時巡回や覚醒された利用者への対応を行なっている。食堂はキッチンと対面式となっており、食堂やホール、またトイレを使用する利用者も確認することができる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫をする場合は、職員が傍について行なう。また、包丁等は、包丁まな板殺菌庫へ保管、洗剤も鍵つきの洗濯室に保管し危険を回避するよう取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	全体会議で事故報告等を行い、今後の対策や原因について皆で考え情報の共有と事故防止に努めている。緊急連絡網の作成や緊急時の対応マニュアルなど作成している。また、スタッフは常に利用者の所在を確認したり、声を掛け合うなどし対応、服薬についても必ず個々に名前を読み上げ誤薬を防止している。	○	スタッフは気を緩めることなく、慣れが生じないよう対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	最寄の消防署で、職員がAEDの使い方や救命救急の講習を受講したり、避難訓練など定期的の実施している。	○	今後もこのような研修を定期的に継続していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練の実施、また町内会への加入や運営推進会議で民生委員の方々に働きかけを行なっている。また、隣接の保育園、老人福祉センター、デイサービスと消防署立会いで合同の避難訓練も実施している。	○	今後も合同避難訓練を実施していく
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々のリスクを把握し、家族にも説明を行なっている。個別援助計画にも反映させている。	○	今後も家族との密な情報交換が必要と考えている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変の発見には注意を払っている。気付いた際には、バイタルチェックを行い協力医に連絡、可能であれば受診援助、或いは往診を受けれるよう援助している。また、家族にもすぐ連絡を入れるようにしている。	○	今後も継続して取り組んで行きたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は鍵付きの書庫に保管し、薬情報については個人日誌に綴り、さらに日誌の服薬情報の欄にも記録して、変更があった場合には特記事項や連絡帳に記入、誤薬が無いように配慮している。服薬時は個別に確認をし、手渡し、服薬の確認の徹底をしている。	○	新しい職員にもきちんと指導をする。またマンネリから来る誤薬が起らないよう今後も十分注意をして行く。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便パターンを把握し、野菜やこまめな水分摂取、牛乳の摂取を促している。それでも便秘が改善されない場合は、協力医に相談し服薬等の対応をしているが、経過観察を行い都度医師に相談し指示を受けている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや誘導をしている。就寝時には義歯を洗淨液に浸けるなどの援助や異変が生じた場合は、家族の承諾を得て歯科医の往診を受けるなどの援助をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	新しい職員に勉強会を通じて理解してもらおう。年1回は全従業員で勉強会をおこなう。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○	包丁、まな板の使い分け(生肉や魚、野菜、果物など)を理解してもらおう勉強会を定期的におこなう。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具や位牌或いは亡くなった家族の写真などを持って来ている方もおられる。	○	なじみの家具や品々を備え付けられるよう、ご家族に協力を求めている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ロスナイ(全熱交換換気扇)と暖房設備を各居室に設置している。冷房については、大型のものをホールに3基設置し、夏冬通じて気温の変化が大きくなるよう配慮している。また、壁掛けの湿度計で乾燥しすぎないように加湿器などを利用し管理をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や浴室を除けば、段差もなく手すりも備えつけてある。また、廊下も広く、車椅子でも楽に通ることが出来る。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレには張り紙、居室には表札や名前を大きく印刷した紙を貼るなどの工夫をしている。また専用の洗面所には、個々に名前を貼るなどし対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に花を植えるなど、また2階の食堂のベランダに植栽を置いたり、窓からは(2階の)四季折々の山々や田園の風景を眺めることなどが出来る。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)